

2020年3月期中間期の業績について

■ 損益の状況

2020年3月期中間連結会計期間における経常収益は、前年同期比298百万円減少し28,826百万円となりました。その内訳は次の通りです。

資金運用収益は、前年同期比249百万円減少し19,418百万円となりました。役務取引等収益は、貸出業務の手数料が増加したこと等から前年同期比334百万円増加し5,304百万円となりました。その他業務収益は、前年同期比38百万円増加し3,033百万円となりました。その他経常収益は、前年同期比422百万円減少し1,070百万円となりました。

また、経常費用は、前年同期比2,068百万円減少し22,223百万円となりました。その内訳は次の通りです。

資金調達費用は、債券貸借取引支払利息の減少等により前年同期比589百万円減少し1,711百万円となりました。その他業務費用は、国債等債券売却損が発生しなかったこと等により前年

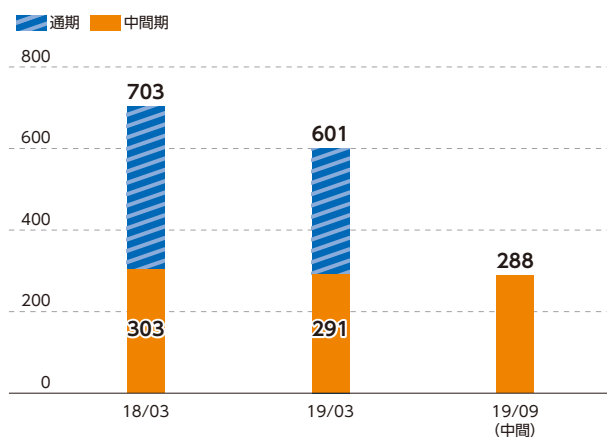
同期比1,086百万円減少し12百万円となりました。営業経費は、全行的な効率的支出の推進により、前年同期比166百万円減少し17,617百万円となりました。その他経常費用は、前年同期比95百万円増加し781百万円となりました。

上記要因により、経常利益は、前年同期比1,770百万円増加し6,602百万円となりました。

税金等調整前中間純利益は、固定資産売却等により、前年同期比4,879百万円増加し9,667百万円となりました。また、法人税等合計は、前年同期比1,749百万円増加し2,955百万円となったものの、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比3,129百万円増加し6,711百万円となりました。

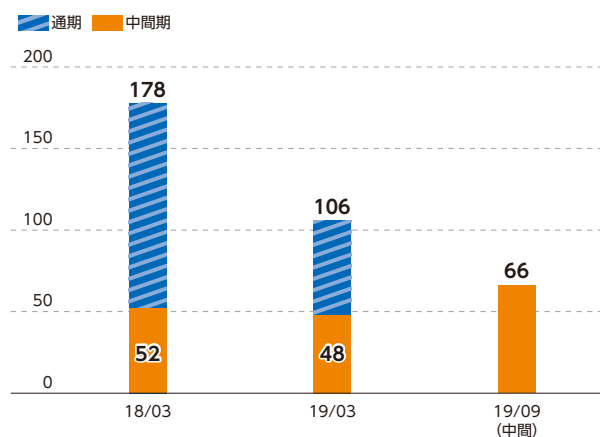
経常収益(連結)

(億円)



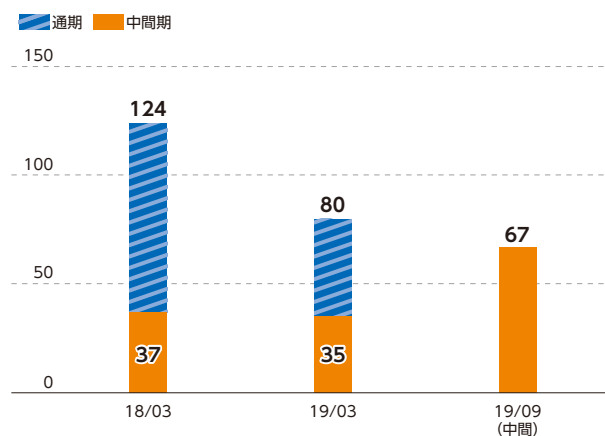
経常利益(連結)

(億円)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益

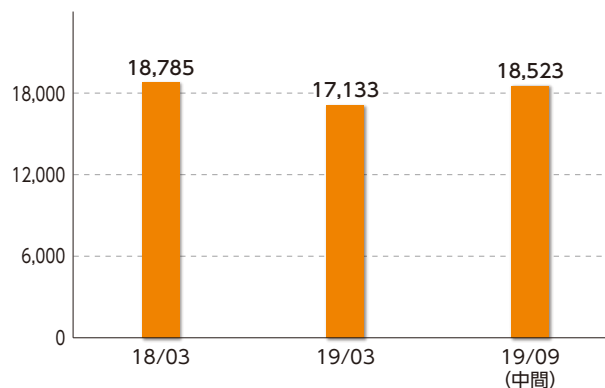
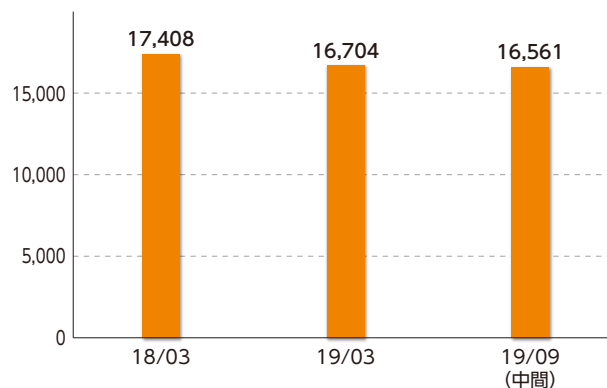
(億円)



■ 財政の状況

2020年3月期中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比170億円増加し2兆4,775億円となりました。このうち貸出金については、前連結会計年度末比143億円減少し1兆6,561億円となりました。また、有価証券は、前連結会計年度末比32億円

増加し2,345億円となりました。負債は、前連結会計年度末比98億円増加し2兆3,122億円となりました。このうち預金は、前連結会計年度末比1,390億円増加し1兆8,523億円となりました。



■ 不良債権比率

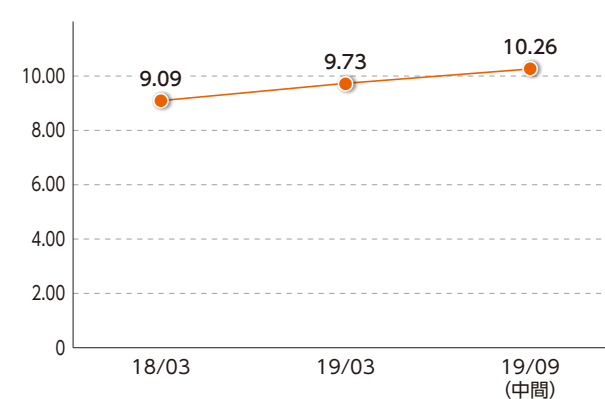
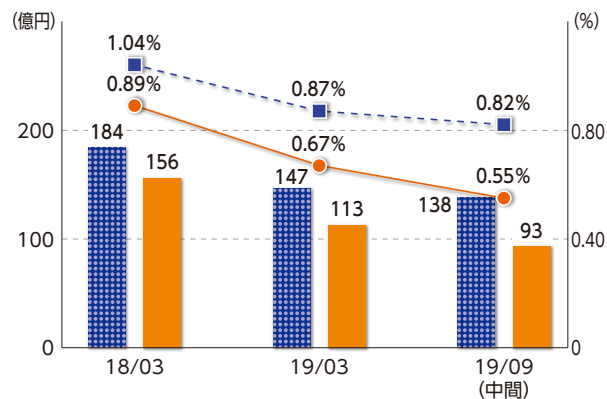
2020年3月期中間連結会計期間末における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却*を実施しなかった場合には前連結会計年度末比0.05%改善し0.82%、部分直接償却を行った場合には前連結会計年度末比0.12%改善し、0.55%と低位で推移しています。

■ 自己資本比率

2020年3月期中間連結会計期間末の連結自己資本比率は10.26%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)

自己資本比率(国内基準、連結) (%)



部分直接償却*を実施しなかった場合 部分直接償却*を実施した場合
 不良債権比率 不良債権残高 不良債権比率 不良債権残高

*部分直接償却とは
 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。